

CVV 選奨土木遺産見学会特別講演会
「産業遺産の楽しみ方と活かし方」開催報告

1. 日時：2022年12月13日（火）13時

2. 会場：新開地まちづくり NPO 会議室

3. 講師：NPO 法人 J-heritage 戦略企画室長 前畑温子様

4. 要旨：

- 産業遺産の撮影を始めたきっかけは、1台のトイカメラを雑貨屋で見つけたことで写真撮影に夢中になり、さらに一眼レフカメラを手に入れて、廃墟の写真にあこがれて産業遺産（廃坑、近代建築、土木遺産、戦績、造船所など）の撮影に夢中になった。
- その後全国の産業遺産を巡っていく中で、その歴史や先人たちの努力を知ることによってその魅力にひかれ、産業遺産を広く紹介するとともにその活用を目指す NPO 法人を仲間とともに立ち上げた。
- 現在は、その NPO 法人 J-heritage の戦略企画室長として、ツアーの企画をするとともに、各地の産業遺産を活用する取り組みに参加し、プロの写真家として活動しながら、講演や書籍の出版など幅広く取り組んでいる。
- 新開地に生まれ育ったことから、「湊川隧道保存友の会」にも所属して、月一回の一般公開とミニコンサートを主催するとともに、湊川新開地の商店街とコラボして、市民の力で湊川隧道を盛り上げる、「湊川隧道部」を立ち上げて、ツアーの企画や関連商品の開発など、産業遺産を単に保存するだけでなく、それを生かして周辺の活性化に結び付けることを提唱している。
- このような産業遺産を保存し活用していくためには、地域住民や関心のある市民と専門家が一体となってその歴史的価値や技術的価値を共有していく事が大事なので、今後 CVV との連携が図れないだろうか。

5. 会員の感想：

- 一方的に広報するだけでなく、若者に効果的にアナウンスする仕掛けが重要だと感じた。例えば、SNS などで人気のある人たちとコラボして、草の根的に広報するなど、土木業界や学会などとは全く異なる観点からの発信の必要性を感じた。
- 土木遺産を単なる資産として捉えるのではなく、私たちの暮らしや生活に密着していることを知り、遺産巡りツアーで活動の輪を広げている。こうした行動と展開のプロセスとアプローチが素晴らしいと感じた。
- 夫婦で NPO 活動をしておられ、本を出したり郷土の知識を発展させる構想力に感心した。このような人が増えると東京一極集中が避けられ、地方創生が進むと思われた。
- いろいろ活動し、各種媒体を通じて活動内容を発信することにより、社会に影響力を有している点が素晴らしい。前畑さんの感性、パワーや能力と我々土木技術者としての知見をコラボすることにより、CVV 技術伝承活動の幅を拓けられる可能性があるのではないか。
- NPO 活動は、強力な複数の推進者と、人と人とのつながりで輪を広げていくという方法が興味を引いた。

6. 講演状況



写真－1 講演の様子



写真－2 聴講状況

(文責：南莊 淳)